

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 3 報
千葉県農林水産部
令和6年6月18日

「ふさおとめ」「ふさこがね」の幼穂形成期は3日早いです 穂肥は遅れないように施用しましょう

[生育概況]

6月6日以降気温は高く、関東甲信地方は6月18日現在まだ梅雨入りしていません。気象庁によると今後2週間は気温が高いと予想されています。各品種の幼穂形成期は「ふさおとめ」「ふさこがね」で6月10日からと、平年より3日早くなっています。4月20日植え「コシヒカリ」は6月19日頃から、「粒すけ」は6月18日頃からの見込みです。

現在の生育は、4月植えはいずれの品種も草丈はやや長く、茎数・葉色は平年並みに推移しています。一方、5月植えの「コシヒカリ」は生育がやや遅く、草丈が短い状況です（表1）。

4月植えの「ふさおとめ」「ふさこがね」は穂肥の時期に入っていますので、遅れないように施用します。

表1 品種別の生育状況（6月15日現在）

品種	植付時期	平年比※1			
		生育進 度※2	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日	やや早	やや長	並	並
ふさこがね	4月20日	やや早	やや長	並	並
コシヒカリ	4月20日	並	やや長	並	並
	5月1日	やや遅	短い	並	並
粒すけ	4月20日	やや早	やや長	やや多	並

※1 平年比は過去10か年（2014～2023年）の平均値との比較。

ただし、「粒すけ」は過去8年（2015～2023年）のデータとの比較。

※2 幼穂形成期の実績値および予測値により判断。

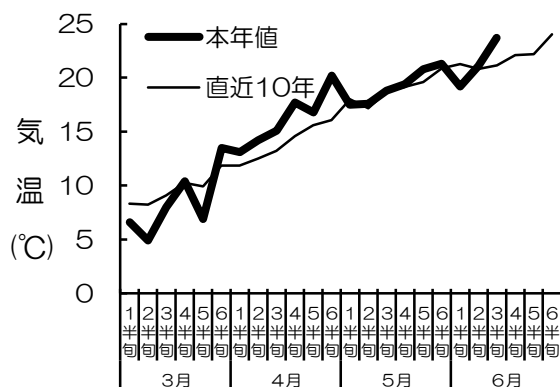


図1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

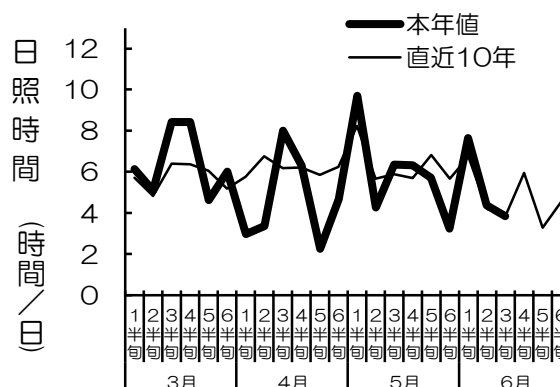


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■穂肥は遅れないようにしましょう

「ふさおとめ」「ふさこがね」は既に穂肥の時期に入っていますので、早めに準備しましょう。「コシヒカリ」、「粒すけ」はこれから幼穂形成期となりますので、それまでに中干しを済ませます。穂肥を施用する際は、必ず幼穂長を確認し、施用の時期・量を判断しましょう。

○穂肥の実施

穂肥の施用時期が早いと倒伏や籾数過剰による登熟不良や玄米外観品質低下を招くおそれがあります。品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安（表2）を参考に、穂肥を施用しましょう。

表2 品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期予測				穂肥施用適期の目安
		県北 (香取市)	九十九里 (横芝光町)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)	
ふさおとめ	4月20日	6月14日	6月12日	6月10日	6月10日	幼穂形成期から1週間以内 【幼穂長 1mm~1cm】
ふさこがね	4月20日	6月15日	6月13日	6月11日	6月11日	幼穂形成期から7日後頃 【幼穂長 1cm】
コシヒカリ	4月20日	6月23日	6月21日	6月19日	6月19日	幼穂形成期7日後頃~ 15日後頃の間 【幼穂長 1cm~8cm】
	5月1日	6月30日	6月28日	6月26日	6月26日	
粒すけ	4月20日	6月22日	6月20日	6月18日	6月18日	幼穂形成期から7日後頃 【幼穂長 1cm】
飼料用米 (アキヒカリ)	5月15日 頃	6月25日頃~				幼穂形成期前5日頃から 幼穂形成期後5日頃 (ただし、最高分けつ期に葉 色が低下した場合は、すぐに 追肥)
飼料用米 (夢あおば)	5月15日 頃	7月4日頃~				

※幼穂形成期については、水稻作柄安定対策調査結果と生育ステージ予測システム（千葉県試験研究成果普及情報）を基に予測。

各品種の10a当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量で各3kg（房総南部の粘質土では、窒素成分を「ふさおとめ」は1~2kg、「ふさこがね」は2~3kg、「コシヒカリ」「粒すけ」は2kg）です。

幼穂形成期の目標生育量（表3）を参考に、生育量が目標を超えている場合は、施用適期の範囲内で追肥時期を遅らせ、減肥しましょう。

近年、秋の長雨・台風により、倒伏するほ場も多くみられますので、幼穂形成期の目標生育量（表4）を参考に、施肥量を調整しましょう。

なお、「飼料用米多収品種（専用品種）」の10a当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量3kg（ただし、たい肥を施用している場合は、窒素のみ3kg）が目安となります。

表3 幼穂形成期の目標生育量

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)			葉色 (カラー スケール値)
		砂質土	壤質土	粘質土	
ふさおとめ	55 以下	570~620 (31~34 本)		520~570 (29~31 本)	4.0
ふさこがね	60~65 以下	450~500(25~27 本)			5.0
コシヒカリ	70 以下	430~560(23~30 本)			3.5~4.0
粒すけ	65 以下	590 (32 本)	550 (30 本)		5.0

※茎数の () 内は 30cm×18cm で植付された時の 1 株平均茎数

表4 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色 (SPAD 値) × 茎数 (m ² 当り)	カラースケール値 (※)			草丈 (cm)	予測される 生育・収量	対策		
	3.5	4	4.5			穂肥 加減	穂肥 時期	倒伏 軽減剤
16,000 以下	560 以下	490 以下	440 以下	70cm 未満	籾数が不足し、 やや減収 目標どおりの生 育が期待	増肥、または時期を 2~3 日早める。		
16,000 ~ 20,000	560 ~ 700	490 ~ 600	440 ~ 550			70~ 80cm	籾数確保のため 穂肥は必要 稈長が伸び、 倒伏が心配	標準量
				標準量	標準			必要
20,000 ~ 27,000	—	600 以上	550 以上	75cm 未満	籾数過剰とな り、乳白米の 発生が心配 稈長が伸び、 倒伏が心配	減肥 (窒素施用量 1~2kg/10a) し て時期を遅らせる か、または無施用。		
				75~ 82cm		×	×	必要

※カラースケール値とおおよその茎数 (m²当り) の関係は、SPAD 値とカラースケール値との換算式に基づき、目安として示した。

■高温登熟障害を回避する施肥管理

出穂期後 20 日間の平均気温が 26℃ を超えると、白未熟粒 (高温登熟障害) が多くなります。白未熟粒対策として、出穂期前 7~5 日 (穂ばらみ期) に葉色を確認しましょう。葉色が淡く目標値に達しないと予想される場合は、10a 当たり窒素量で 1 kg を上限 (食味低下を防ぐため) に追肥を施用しましょう (表 5)。

表5 各品種の出穂期の葉色目標及び軽減対策における対策時期と施用窒素量

品種	葉色 (SPAD 値)	対策時期	窒素量
ふさこがね	36.5	出穂期 7~5 日前	1 kg/10a 以内
コシヒカリ	34.4		
粒すけ	34.0		

■水管理

幼穂を確認したら入水を開始し、出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理を行います。(自然由来のカドミウムの吸収を抑える技術です。)

また、冷害危険期となる幼穂形成期 10～15 日後（出穂期 15～10 日前）に、日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、幼穂を保温するため「深水管理」にします。

特に耐冷性が弱い「アキヒカリ」、「夢あおば」の4月植えについては注意しましょう。

表6 冷害危険期予測（冷害危険期は記載日から6日間）

品種	植付時期	県北 (香取市)	九十九里 (横芝光町)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	6月24日	6月22日	6月20日	6月20日
ふさこがね	4月20日	6月25日	6月23日	6月21日	6月21日
飼料用米(アキヒカリ)	5月15日	7月5日～			
飼料用米(夢あおば)	5月15日	7月14日～			

■病害虫・雑草防除

○斑点米カメムシ類（畦畔雑草の草刈り）

畦畔雑草は斑点米カメムシ類の生息場所となり、出穂前後の草刈りは斑点米カメムシ類をほ場の中に追い込みますので、出穂2週間前までに畦畔雑草を刈取ります。

また、ほ場内にイネ科の雑草があると、斑点米カメムシ類の飛来が多くなりますので、取り除きましょう。

○いもち病、稲こうじ病、紋枯病の防除

いもち病は、気温が低く、長雨や湿度の高い日が続くと発生が多くなります。止葉などの上位葉に葉いもちの病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除をしましょう。特に今年は葉色が濃く軟弱に生育しているので注意して下さい。

稲こうじ病は、穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。玄米に稲こうじ病が混入すると規格外になってしまいます。前年に多発したほ場では出穂期10日前までに、薬剤防除をしましょう。

紋枯病は、高温多湿で茎数が多いと発生しやすくなります。紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。近年では多肥栽培をする飼料用米栽培で発生が多いので、状況を確認しましょう。

表7 いもち病、稲こうじ病、紋枯病の主な防除薬剤

薬剤名	病害名	いもち病	稲こうじ病	紋枯病
ダブルカットフロアブル		○予防・治療		
ノンプラス 粉剤 DL/フロアブル		○予防・治療	○	
ブラシン 粉剤 DL/フロアブル		○予防・治療	○	
カスミン 液剤		○治療		
モンガリット粒剤			○	○
モンカット 粒剤/フロアブル				○
バリダシン 粉剤 DL/液剤 5				○

(※) 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

病害虫発生予報の最新版は、千葉県農林総合研究センター病害虫防除課ホームページをご覧ください。

農薬の使用に当たっては、収穫前使用基準等の登録内容を良く確認して、適期に防除しましょう。



○イネばか苗病の抜き取りの再度のお願い

本田で発生したイネばか苗病の株を放置すると、孢子が飛び、周りのほ場にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、優良な種子の生産に支障をきたします。本病の発生が見られたら、採種ほ場の出穂前までに罹病株ごと抜き取り、田んぼから離して埋却処理するなどの対応について、ご協力をお願いします。



写真1 イネばか苗病

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、6月27日に発行予定です。